

雪室作物を販売

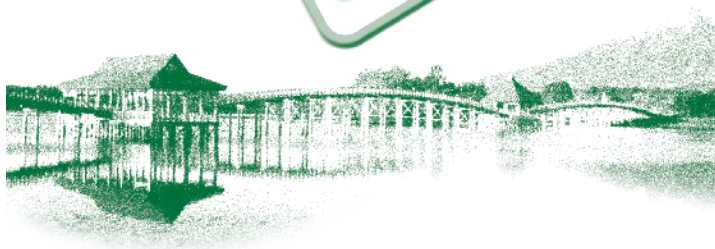
町の農業従事者でつくる「冬の農業研究会」(澤田なよ会長)は3月6日(土)、道の駅つるたで雪室貯蔵した野菜や果実約200kgを販売しました。

同研究会は豊明館の中庭の雪室に1月下旬からリンゴやジャガイモ、ニンジン、白菜、キャベツ、ネギ、ゴボウなどを約一ヶ月半貯蔵しており、販売の前日に雪室から掘り起こしました。その後、糖度を計測。キャベツやゴボウ、リンゴなどは貯蔵前と比べ、糖度が3～6度増していました。

販売会当日は販売開始前からお客さんが並び、販売が開始すると商品が飛ぶように売れ、開始から10分で野菜は完売。リンゴも1時間で完売しました。



△多くのお客さんが雪室作物を買い求めていました



あなたの地区の楽しい催しや出来事などがありましたら、役場企画観光課まちづくり班(内線262)までお知らせください。

長内孝樹さんが角界入り

大相撲・高砂部屋に入門する町出身の長内孝樹さんが町役場を訪ね、相川町長らに入門の報告とともに「まずは序の口で優勝し、2年以内に関取に上がりたいです」と意気込みを語りました。

相川町長は「長内さんの活躍が町で相撲をする子どもたちの励みになる。関取に上られるよう応援していく」とエールを送りました。

長内さんは4兄弟全員が相撲経験者という相撲一家の三男。小学生の頃から町の相撲道場に通い、日々研鑽してきたそうです。角界入りの動機について、長内さんは「大学4年時はコロナ禍で試合がなくなり不完全燃焼でした。進路を考える中で、小さいときからやってきたことを仕事にしたいと思うようになった」と話していました。



△角界入りを報告した長内孝樹さん(中央)

町の英語教育充実のために

町建設協会（松山淳会長）は3月17日（水）、小学校の英語教育に役立ててもらいたいと、町にデジタルカメラなどのオンライン配信用の機材一式を寄贈しました。

新型コロナウイルスの影響で姉妹都市のフードリバー市との交流事業が行えないなか、代替事業としてオンラインを使い、両市町の子もたちが映像を通して交流する際に、今回寄贈された機器も活用されます。

松山会長は「オンライン交流のあと、直接会えたときに親睦が深まる手助けになってくれたらうれしい」と語りました。相川町長は「現地の方と交流することは子どもたちにも良い刺激になるだろう」と話していました。

同協会による寄贈は今回で14回目。



△配信機器一式を寄贈した松山会長（中央）



△高所の枝の剪定を行う町内会員

美しい桜を見て欲しい

間山町内会（成田豊昭会長）は3月28日（日）、間山地区農村公園の桜の剪定や周辺の道路のゴミ拾いを行いました。

この取り組みはこの時期に毎年行われており、当日は朝早くから約80人の住民が参加。参加した人たちは、枝切りハサミやノコギリを使って、ソメイヨシノやしだれ桜など、およそ120本の木の伸びすぎた枝や枯れた枝を1本ずつ丁寧に切り落としていました。また、周辺の道路などに落ちているたばこの吸い殻や空き缶なども拾い集めて、地区の美化に取り組んでいました。

町内会によると公園の桜は4月下旬に見頃を迎えるそうです。



Vol.33（筆：山田俊）

3月に入り、今年も園地での作業をスタートしました。雪が積もる中、除雪も入っていない農道を進むのはちょっとした冒険のよう！約3ヵ月ぶりに園地へ行くと、雪が棚の高さまで積もっていてあらためて雪の多さを痛感しました。

まずは枝の剪定！普段は目線の高さにある枝が、雪の上だと足下にある感じだったので、腰を屈めての枝切りはなかなかハード。しっかり芽吹いてくれますように！！
※ぶどうの剪定は、収穫後すぐの冬か雪が消え始めた春に行うか、人によってさまざまです。



△園地にてスチューベンの剪定を行う山田さん

山田さんの SNS



Twitter



facebook

地域おこし協力隊の活動内容は、SNS・町ホームページでも確認することができます。